

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
国際日本	国際日本	夜・通信			21	21	13	
建築&芸術	建築&芸術	夜・通信			36	36	13	
現代社会	現代社会	夜・通信			34	34	13	
	現代社会 (通信教育課程)	夜・通信			16	16	13	
経営	経営	夜・通信			22	22	13	
健康栄養	管理栄養	夜・通信			24	24	13	
国際看護	看護	夜・通信			78	78	13	
(備考) ・令和3年4月 学部学科名称変更のため、メディア・芸術学部メディア・芸術学科から建築&芸術学部建築&芸術学科に名称変更。 ・令和4年4月 学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から国際日本学部国際日本学科に名称変更。 ・令和5年4月 経営学部経営学科 開設。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info_higher-education.html (通学課程) https://www.otemae.ac.jp/files/about/2023_daigaku_jitsumu.pdf (通信教育課程) https://www.otemae.ac.jp/files/about/2023_tsushin_jitsumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人大手前学園ウェブサイト内「学園データ→情報公開」にて公表する。
<https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2022. 4. 1 ~ 2026. 3. 31	法務
非常勤	企業代表取締役社長	2021. 4. 1 ~ 2025. 3. 31	地域連携
(備考) 他2名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(通学課程) 授業開始前年度からウェブを介して作成していただくよう、担当教員に依頼している。本学のカリキュラム・ポリシーを示し、担当教員は「授業目的」「各回の授業計画」の他、「授業時間外学習」「到達目標」「成績評価の基準と方法」などの項目に入力していく。また、通学課程では本学独自の「到達基準」(C-PLATS[®]=社会人基礎力を10の項目に分け、それぞれ到達基準を示したもの)についても入力を依頼している。入力された内容については、各学部長及び各メジャー主任、教務課が確認する。</p> <p>(通信教育課程) 通信教育課程のカリキュラム・ポリシーを示し、担当教員は「学習目標」「学習の進め方」「各回の授業計画」のほか、「授業時間外学習」「成績評価方法」等の項目を明確に示すようにしている。シラバスの内容については、現代社会学部長と通信教育部長、通信教育部事務室が確認する。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>(通学課程) 大手前大学ウェブサイトにて年度初めに公表する。 http://sb.otemae.ac.jp/syllabus/SyllabusSearch.aspx</p> <p>(通信教育課程) 大手前大学通信教育課程の学修支援システムやウェブサイトにて年度初めに公表する。 https://dec.otemae.ac.jp/curriculum/syllabus.html</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(通学課程)

成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意 味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

学生に対しては、配布している冊子『履修ガイド』で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスにおいても周知を図っている。なお、シラバスには「成績評価の基準と方法」の項目を示し、通学課程では記入する担当教員に「試験、小テスト、レポート等の提出物、発表等、評価方法及びそれぞれの評価配分(%)並びに各成績評価(A、B、C、D、F等)の基準を明記してください。また授業への出席は常であることが前提のため、出席は評価方法には含めないでください。」と依頼している。

(通信教育課程)

『学生便覧』にて成績評価について示すとともに、各種ガイダンスや学修支援システム上で学生に周知を図っている。なお、シラバスには「成績評価方法」の項目を示し、評価材料(確認テスト、レポート、ディスカッション、単位修得試験等)と、各成績評価(A、B、C、D等)ごとに学修の結果(評価の観点と程度)について基準を示している。

成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意 味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

通信授業・メディア授業等のオンライン授業では、各回に課題を設置し、理解度チェックを行っている。なお、各クールの単位修得試験(ウェブ試験、または、レポート試験)の受験資格は、各回のオンライン授業動画を視聴の上、課題を提出することを条件とし、学修成果と学生ごとの学習時間(オンライン授業視聴時間等)を適正に評価して単位を与えている。

成績発表後には成績照会期間を設け、シラバスに記載のある成績評価方法に照らし

<p>合わせて自身の成績に疑問がある場合は問い合わせの機会を設けている。担当教員からの「評価ポイント、回答への示唆、今後の学習分野や学習方法等のフィードバック等」の回答があり次第、該当学生に通知し、学修アドバイスに繋げている。</p> <p>なお、成績照会の受付や担当教員からの回答通知については、透明性、公平性の観点から通信教育部事務室が仲介している。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>5段階の成績評価に以下のとおりグレードポイントを付し、履修した授業科目の単位数にこのポイントを乗じ、それらの合計を履修登録単位数の総合計で除して算出する。</p> <p>「A」=4、「B」=3、「C」=2、「D」=1、「F」=0</p> <p>(通学課程)</p> <p>特定の学期を対象として算出したものを「学期G P A」、入学時から通算したものを「通算G P A」とし、各学生の担当アドバイザー教員によって、次の履修指導を行っている。</p> <p>① 前学期のG P Aが1.5未満の場合 学生本人と面談し、注意と学修に関する指導を行う。</p> <p>② 通算G P Aが1.2未満、又は「キャリアデザインI」が不合格の場合 学生本人及び保護者と面談し、注意と学修に関する指導を行う。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>入学時から通算した「通算G P A」について、奨学金等の継続認定の基準等に利用するとともに、各学生の学修管理の指標として明示している。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info_higher-education.html</p> <p>(通学課程) https://www.otemae.ac.jp/files/about/2022_daigaku_seiseki-bunpu.pdf</p> <p>(通信教育課程) https://www.otemae.ac.jp/files/about/2022_tsushin_seiseki-bunpu.pdf</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(通学課程)

大学全体及び各学部ごとにディプロマ・ポリシーを作成し、示している。

これらの方針に沿って、修業年限及び各学部で示した卒業要件単位数を学生に対して示している。

① 修業年限

卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、2年次に編入学した者については3年以上、3年次に編入学した者については2年以上となる。大学には、休学期間を除き、8年間（編入学した者を除く。）在籍することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。

② 卒業要件単位数等

卒業するためには、次の要件をすべて満たした上で、卒業の要件となる科目の中から124単位以上を修得する必要がある。

i) 国際日本学部、建築&芸術学部及び現代社会学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」

イ 所属する学部（学科）の「ゼミナールⅠ」及び「ゼミナールⅡ」並びに「卒業研究」又は「卒業制作」の単位を修得していること。

ウ 所属する学部（学科）の専攻プログラムからメジャー1つ以上を修めていること。

ii) 経営学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」

イ「ゼミナールⅠ」及び「ゼミナールⅡ」並びに「卒業研究」の8単位を修得していること。

ウ 専攻科目から必修12単位を修得していること。

エ 5つの専門分野（【経営】【会計】【マーケティング】【デジタルビジネス】【いきいきキャリア】）のうち1つの専門分野から16単位以上を修得していること。

オ「経営学」メジャー（66単位）を修めていること。

iii) 健康栄養学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」
- ・「応用セミナーⅠ」、「応用セミナーⅡ」、「応用セミナーⅢ」及び「応用セミナーⅣ」

イ 各年次における必修の専攻科目（次号に掲げる科目を除く。）計96単位をすべて修得していること。

ウ「管理栄養士特講Ⅰ」及び「管理栄養士特講Ⅱ」又は「卒業研究」の単位を修得していること。

エ メジャー（主専攻）1つ以上を修めていること。

オ 入学時からの通算GPAが1.5以上であること。

iv) 国際看護学部

ア 総合科目から、以下の 22 単位以上を修得していること。

- ・必修 17 単位
 - ・[グローバル社会と言葉] から「看護のための中国語」又は「看護のための韓国語」のいずれか1単位及び「Basic Communication in Global Context」又は「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位の合計2単位
 - ・[リベラルアーツ] [グローバル社会と文化] の選択科目から合計3単位以上
- イ 専攻科目の [専門基礎分野] から必修 27 単位を修得していること。
- ウ 専攻科目の [専門分野] から必修 73 単位を修得していること。
- エ メジャー（主専攻）を 1 つ以上修めていること。
- オ 入学時からの通算 GPA が 1.5 以上であること。

上記方針に基づき、適切に卒業を認定している。

(通信教育課程)

大学全体及び通信教育課程としてディプロマ・ポリシーを作成し、示している。

この方針に沿って、修業年限及び卒業要件単位数を学生に対して示している。既修得単位を含め 124 単位以上を修得し、以下の修業年限、スクーリング単位数を満たした者は、教授会の議を経て、卒業を認定する。

	卒業要件単位数 (うちスクーリング要件単位数)	修業年限
1 年次入学生	124 単位以上 (30 単位以上)	4 年以上
3 年次編入学生	124 単位以上 (16 単位以上)	2 年以上

上記方針に基づき、適切に卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

(通学課程)

大手前大学ウェブサイトにて公表する。

<https://www.otemae.ac.jp/about/policy.html>

(通信教育課程)

大手前大学通信教育課程のウェブサイトにて公表する。

https://dec.otemae.ac.jp/about/basic_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
収支計算書又は損益計算書	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
財産目録	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
事業報告書	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html
監事による監査報告(書)	学校法人大手前学園ウェブサイトにて公表する。 https://gakuen.otemae.ac.jp/about/disclosure.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:) 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 大手前学園中長期計画 2020-2025 年度 対象年度: 2020~2025 年度)
公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/middletermplan.html

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/about/info.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際日本学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト） （概要） 国際日本学部国際日本学科は、人類が創造してきた文化的行為を教育研究の対象とし、学修活動の中で、文化についての深い洞察力と高い教養を身につけ、異文化に対しても広い視野をもって尊重し理解することのできる教養豊かな人材養成を目的とする。 （大手前大学学則第 3 条の 3（1））
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト） （概要） 本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。国際日本学部は、以下の到達目標の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（学術）を授与します。 1. 日本および世界の多様な歴史、言語、文化、文学、国際関係に対し、尊重、理解、受容を試みることで幅広い視野と教養を持つとともに、専攻領域における専門的能力を修得している。 2. 国際社会や地域社会で発生する諸問題に対して、高い問題解決能力を備え、持続可能な社会の確立に寄与すべく多様な人びとと協働して課題に取り組むことができる。 3. 学修によって修得した英語、日本語での思考基盤能力（分析力、創造力、計画力、論理的思考力）、行動基盤能力（プレゼンテーション力、行動力、コミュニケーション力、リーダーシップ）、社会的基盤能力（チームワーク、社会的責任）を発揮できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト） （概要） 国際日本学部は、歴史、言語、文化、文学、国際関係など人類の営為が生み出したさまざまな文化的事象を教育研究の対象とします。日本から海外へ、あるいは海外から日本への物理的、経済的な移動や文化的な交流によって国際的な視野が必要となってきました。 1、2年次では基礎的な情報機器の活用、文献検索や資料購読、解題の方法、プレゼンテーションを通じてレポートの書き方などを課しています。ただ初年次から各種専門課程の入門講義を通して学問へ導きます。入学時より専門を決めている人はより深く、またまだ未定の人は様々な分野の入門講義を学修することで自分の専門を主体的に選択できます。 3、4年次ではより深く専門科目を学修する一方で、少人数の専門演習が始まり、将来の自分自身の進路を見据え、プレゼンテーションや卒業研究に向けて取り組みます。具体的には日本をはじめ各国、各地域の多種多様な歴史、言語、文化、文学、国際関係に対し、互いを尊重、理解、受容することのできる洞察力を有した、教養豊かな人材を養成するため、以下の方針に基づいて、教育課程を編成し実施します。 1. 日本および世界、その各地域の文化的事象に関する豊かな教養とともに専攻分野における学術的専門性を身につける。 2. 多種多様な文化に対して、尊重、理解、受容を試みると同時に、多角的、多元的にとらえる広い視野と考察力を育む。 3. 様々な課題や問題を自ら発見し、解決へと導くために主体的・能動的に学修を促す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

(概要)

国際日本学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に基づき、以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。

国際日本学部は、日本や世界の歴史、文化、言語を学習することで、日本から海外に向けて発信できる人材、また国際的視野に立って日本社会のあり方を考察できる人材の育成を目指しています。近年、海外が身近なものとなってきました。日本から世界へ旅行したり、仕事をしたりする人が増えたと同時に、海外からも多くの方が、日本の文化（歴史、文学、芸術、アニメなど）に触れるため、また働くために来日するようになりました。人やモノだけでなく、文化も交流がおこっています。

国際日本学部ではこのような時代に対応できるよう教育、研究を実施し、次のような学生を希望します。

1. 日本と世界、その各地域の多様な文化的事象（歴史、言語、文化、文学、国際関係など）に対する知的好奇心と探究心および自己向上意欲がある者。
2. 教職、博物館学芸員、図書館司書などの専門職や大学院進学を経て研究者への希望をもつ者。
3. 日本の様々な文化を世界へ発信したり、あるいは世界の文化を日本で見つめ直したりすることに興味をもつ者。
4. 日本や世界が抱えている諸問題の探求を行い、国際的な視野をもって活躍を目指したい者。
5. 多様な文化を受容し、交際交流を通じた活動、行政などのまちづくり業務に従事したい者。
6. 時代とともに変化する日本語の技能を身につけ、高度な日本語能力を持った日本語教員等を目指したい者。
7. 学修成果を活用して多文化共生および持続可能な地域社会の構築に寄与しようとする意欲がある者。

については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 建築&芸術学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>建築&芸術学部建築&芸術学科は、芸術、建築、マンガ・アニメーション、メディア表現を教育研究の対象とし、学修活動の中で、創造力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（2））</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。建築&芸術学部では、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（学術）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野で培った創造的な構想力をもって社会にかかわっていくことができる。 2. 他者、社会、世界に関心を示し、多様な人々と協働して問題を解決することができる。 3. 良質な価値観を持って、文化的で豊かな社会を構築する力となれる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>建築&芸術学部は、建築、芸術およびメディアの3つの専門コースからなり、建築およびデザイン、造形芸術、メディア表現、舞台芸術などの創造活動とメディア社会における文化創生を教育研究の対象とします。</p> <p>理論と実践による多様な学修活動を通じて、創造的な構想力と表現力を修得し、文化的に人間生活を考える素養を備えた感性豊かな人材を養成するため、各コースは以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築コース <p>建築コースは、建築とインテリアデザインのふたつの専攻を設けています。これらの専攻では、多くの授業において専門で必要とされる共通の知識や技能を学びますが、3年次以降においては、建物の設計や構造などから建築を考える建築専攻と、住宅や店舗などの内部空間から建築を考えるインテリアデザイン専攻について、それぞれの特有な分野に重きを置いた授業や研究を行います。またどちらの専攻も授業における知識や技能の修得に限らず、インターンシップや地域活動などの実践的な経験を通して、建築と向かい合う姿勢の修得を図ります。そして建築分野の専門家として、暮らしやすく安全な社会の実現に貢献できる人材を育成します。</p> 2. 芸術コース <p>芸術は、人間が人間らしく生きるための糧となり、心豊かな人生を実現していくために必要不可欠なものといえます。芸術コースの専門教育プログラムは、デザイン造形美術、マンガ制作、映像・アニメーション、映画・演劇の4つの専攻を置き、作品制作などの創作活動を主体とする実技実習を軸にして構成されています。各専攻分野における必要な知識と技能を修得し、創作する立場に立って芸術の本質に迫り表現の可能性を探ります。また、展覧会や公演による作品発表や地域社会連携活動などの多様な表現活動を通じて、広範な文化芸術活動の社会的意義を理解し、自ら思考し表現へと高めていける主体性の確立と創造的で豊かな人間性を涵養していきます。</p> 3. メディアコース <p>現代社会における多様な情報メディアは、民主主義社会を支えるインフラストラクチャーとしてなくてはならない存在となっています。メディアコースでは、現代社会における</p>

メディアの機能とその社会・文化への関与を構造的に理解し、情報メディアを効果的に活用した情報発信力を修得するための専門教育プログラムを提供します。具体的には、メディア理論や関連産業に関する知識を学ぶだけでなく、調査研究や地域社会連携活動などの実践的な活動を通じて効果的な発信方法や社会実態への気づきを促すことで、変動の著しい現代社会で必要とされるメディアリテラシーを身につけることを目指します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

建築&芸術学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に基づき、以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。各種入学試験では、それまでに学習した教科の基礎的知識・技能および下記の資質を多面的・総合的に評価します。

1. 創造的表現活動に対する関心・旺盛な探究心と自己を高めようとする強い意欲がある。
2. 他者とコミュニケーションを取りながら協調・協働し、問題解決をしようとする意欲がある。
3. 将来に対して明確な目標を持ち、自らの夢に向かって挑戦する意志がある。

については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「数学」、「情報」、「芸術」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 現代社会学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部現代社会学科は、国内外の社会現象を教育研究の対象とし、学修活動の中で、現代社会の諸問題を発見・理解できる力を身につけ、社会人基礎力を備えた幅広く社会で活躍できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（3））</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。現代社会学部では、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（学術）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな教養と旺盛な自己開発精神、専攻領域における専門知識を修得している。 2. 優れた国際感覚とコミュニケーション能力を備えている。 3. 学修によって育まれた豊かな人間性と、社会に貢献する意欲と能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部は、国内外の社会現象を教育研究の対象とし、現代社会の諸課題を発見・理解できる基礎力を備え、社会で活躍できる人材の養成を目指すため、以下の方針に基づいて、教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会のさまざまな活動を理解し、洞察力、創造力等を高める。 2. 社会の課題を発見し、解決を導く能動的な学修を行う。 3. 専攻分野における、実践的な専門知識、技能等の修得をはかる。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に基づき、現代社会のさまざまな事象や課題を自律的に考え解き明かし、多様な学問領域に挑戦する、以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。各種入学試験では、それまでに学習した教科の基礎的知識・技能および下記の資質を多面的・総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会のさまざまな事象・課題に対する関心・旺盛な探究心と向上心がある。 2. 他者とのコミュニケーションを積極的にとり、課題解決をしようとする意欲がある。 3. 未来に向かって創造性に積極的に取り組む意志がある。 <p>については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。</p> <p>また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。</p> <p>入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。</p>

学部等名 現代社会学部 (通信教育課程)
教育研究上の目的 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>通信教育課程は、国内外の社会問題を教育研究の対象とし、学修活動の中でグローバル化、情報化が進んだ現代社会にあつて、諸課題を発見・理解できる力やコミュニケーション力を身につけ、社会人基礎力を備え、企業社会など、幅広い社会分野で活躍できる人材の養成を目的とする。</p> <p>(大手前大学通信教育部規程第4条)</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>大手前大学通信教育部は、リベラルアーツ教育を通して高度な学際的知識と汎用的能力を修得した学生に対して卒業を認定し、学位を授与します。</p> <p>本学は、学位授与者が以下の知識・能力・態度を身につけていることを保証します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学び続け自己を高めようとする意欲と強い意志を持っている。 2. 困難な問題を解決に導く知識と汎用的能力を修得し、高度化した現代社会においてそれらを駆使して思考し、決断し、行動して社会に貢献することができる。 3. 高い倫理観を持ち、美しく豊かに生きるための人間力を具備している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>大手前大学通信教育部は、以下の三つの方針に基づいて教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リベラルアーツ教育による、高度な学際的知識および汎用的能力を修得できるカリキュラム体系を構築する。 2. 学生の学修ニーズに応じて、「幅広い分野の学際的学修」と「専門分野の体系的学修」が両立するカリキュラム体系を構築する。 3. 現代社会が求める学びのニーズに即応する柔軟なカリキュラム編成を行う。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大手前大学ウェブサイト)
<p>(概要)</p> <p>大手前大学通信教育部は、本学の建学の精神、目的、使命及び教育方針に共感し、大学での学びに必要な基礎的知識・能力・態度、および日本語能力を持ち、かつ以下に示す学びへの学修意欲と強い意志を持った入学者を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高いレベルの教養や判断力・決断力・行動力の修得意欲 2. 知識・能力・資格・学位を獲得してキャリアアップやキャリアチェンジしようとする意欲、およびそれを成就させる強い意志 3. 生涯学び続けるための旺盛な好奇心・探究心および学修意欲

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部経営学科は、国内外における経営現象を教育研究の対象とし、学修活動の中で、豊かな教養、経営学の専門知識を身につけ、地域に軸足を置きつつ、企業や団体における課題解決を通じて、社会の幸福と持続可能な発展に貢献できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（6））</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>本学では、所定の卒業要件を満たし、学修によって修得した知識と能力をもって社会に貢献することのできる学生に学位を授与します。経営学部では、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士（経営学）を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の幸福と持続可能な発展に貢献するための高い志、広い視野、経営学の専門知識を備えている。 2. 経営学の専門知識を用いて、社会における課題の解決策を考え、他者と協働してそれを成し遂げる力を備えている。 3. 自らのキャリアを主体的に形成し、実践と内省を繰り返しながら成長する力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、国内外における経営現象を教育研究の対象とし、地域に軸足を置きつつ、企業や団体における課題解決を通じて、社会の幸福と持続可能な発展に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて、教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学に対する興味、関心につながる導入教育の充実 2. 社会の発展に貢献する志と幅広い視野の涵養 3. 幅広い経営学の基礎知識の修得 4. デジタル社会に適応し得る知識の修得 5. 実社会で活躍するための基礎スキルの修得 6. 産学連携による理論と実践を結びつけた学び 7. 自律的なキャリアの形成と他者の支援につながる学び
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、本学の建学の精神、目的、使命及び教育方針に基づき、以下の資質を備えた学生を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学を学ぶための基礎となる科目を幅広く履修している学力を保有する。 2. 社会、組織、人について、深い洞察力をもって論理的に考え、表現できる。 3. 社会的な問題の解決に関心を持ち、他者と協働できる。 4. 経営学を中心とする本学の学びに興味を持ち、その学びを社会の発展に活かす意欲がある。 <p>については、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」、「情報」、「商業」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考</p>

力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 健康栄養学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部管理栄養学科は、複雑多様化した健康課題を教育研究の対象とし、学修活動の中で、コミュニケーション能力、企画力、及び実行力を身につけ、幅広い教養、高度な専門知識・技能、豊かな人間性を兼ね備えた、国民の健康向上に貢献できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（4））</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部は、学内での学びおよびボランティア活動などの課外活動を通して、健康と栄養の専門家として社会に貢献できる人材として認める学生に対し卒業認定し、学士（栄養学）を授与します。所定の期間在学し、使命および教育方針に基づいて設定された授業科目を履修して、厳正な成績評価のもと基準となる単位数、成績評価基準を満たすことを学位授与の条件とします。</p> <p>健康栄養学部は、学位授与者が以下の知識・能力・態度を身につけていることを保証します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践的な管理栄養士として必要な資質を保持するとともに、管理栄養士国家試験に挑戦できるレベルの総合的な能力を有している。 2. 豊かな人間性と探求心ならびに高い倫理観と社会的責任感を有している。 3. 自ら問題を発見し、多様な人々と協働して問題を解決することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部は、「食」を通じて人々の健康および生活の質向上を支援する管理栄養の専門家として、医療、福祉をはじめスポーツ、学校、企業など幅広い分野で社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全てのカリキュラムは食と健康のスペシャリストを養成すると同時に、豊かな人間性、高い倫理観、困難を克服する問題解決能力など、社会人としての基盤的能力を養成するものとする。 2. 専門基礎分野では、健康と栄養の専門家に必要な自然科学系知識の修得をはかる。 3. 専門分野では、社会現場で豊富な経験を持つ医師、薬剤師、管理栄養士および該当分野の研究者などによる講義や実習を充実させ、基礎力と応用力を備えた実践的な専門家の養成をはかる。 4. 発展分野では、医療、福祉をはじめ多様な分野において必要な専門知識・技能を修得し、社会で活躍できる人材育成、ならびに研究能力の開発を目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>健康栄養学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に基づき、自ら課題を探究し自律的に考え行動して解決の道を切り拓く意欲と能力に富み、食を通じて国民の健康向上への貢献を志す学生を受け入れます。</p> <p>多様な能力を持った学生を幅広く受け入れるために、多種の選抜方法を用意し公正かつ厳正な選考を行います。</p> <p>健康栄養学部は、以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康と栄養に対する強い関心と旺盛な探究心および自己成長意欲 2. 健康と栄養の専門家として社会に貢献しようとする高い志

3. 管理栄養士を目指すための基盤となる知識・能力

については、学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価します。このうち「知識・技能」では、基礎的な教科の「国語」、「外国語」、「生物」、「化学」、「数学」などの基礎知識・技能を身につけていることが望まれます。また、「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、一定程度のコミュニケーション力や論理的思考力、行動力などを重視します。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

学部等名 国際看護学部
教育研究上の目的（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部看護学科は、国際化する社会で暮らす多様な人々への看護に関する課題を教育研究の対象とし、グローバルな視野に立った教養を基礎とする知識・技能・態度を身につけ、全ての人が人らしく生きるための支援を実践できる人材養成を目的とする。</p> <p>（大手前大学学則第3条の3（5））</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部は、学内での学びと国内外の広範な地域における学術交流活動を通して、グローバルな視野に立った教養を基礎とする知識および看護学の専門知識・技術・態度を修得し、国際化する社会において看護の専門家としての基盤的能力を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（看護学）を授与します。所定の期間在学し、使命および教育方針に基づいて設定された授業科目を履修して厳正な成績評価のもと基準となる単位数、成績評価基準を満たすことを学位授与の条件とします。</p> <p>本学は、学位授与者が以下の知識・能力・態度を身につけていることを保証します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者が求める健康支援と看護を多職種と連携・協働しながら実践するための知識および技術を有している。 2. 看護職者として課題を見出し、克服するために、主体的に課題に取り組むことができる。また看護問題・課題の解決に向けて、必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な看護方法を計画し安全かつ確に行動することができる。 3. 国際化する社会に暮らす人々に寄り添い、多様な人々の営みを理解、受容し、個人の価値観、信念、宗教観、生き方を尊重することができる等、グローバル人材としての資質を有している。 4. 国際化する社会に貢献するグローバル人材として、臆することなく英語を主とする外国語でのコミュニケーションを図ることができ、かつ看護職者として医療現場において適切な医療英語を使った対応ができる。 5. 各個人が有する多面的な価値観や伝統、および生活様式の多様性を受容する豊かな人間性と、人の健康と命に寄り添う高い倫理観と人権意識を持ち、看護の専門家として国際化する社会に貢献するという強い社会的責任感を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）
<p>（概要）</p> <p>国際看護学部は、国際化する社会で暮らす多様な人々を対象に、人々の営みや価値観の違いを理解、受容する広い視野を持ち、対象者のニーズに応じた健康支援と看護を実践するグローバル人材としての看護師を養成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成し実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な人々の価値観や文化の違いを受容し行動するグローバル人材としての資質を養うため、日本人だけでなく、定住外国人や訪日外国人、帰国者、渡航者および在外日本人と、彼ら/彼女らを支援する人々の活動を理解するための科目を開講する。 2. 国際化する社会の一員として、英語を中心に中国語や韓国語等の外国語を学ぶ。特に英語は1年次春学期から会話力や表現力を培うためネイティブスピーカーによる演習を実施するとともに、医療現場での対応を想定した医療英語を体系的に学び、臆することなく外国語でのコミュニケーションを図ることができる能力を身に付ける。 3. 総合科目のうち基礎分野ではスポーツやセルフケアに関する知識を習得し、専攻科目の専門基礎分野において人のライフサイクルや相手を尊重し傾聴する姿勢を学ぶことで、多様な人々に寄り添った健康支援を行う看護師としてのコミュニケーション能力と対人スキルを高める。

4. 看護に求められる多様な人と場を理解するため、阪神地区を基盤とした実習を1年次春学期から展開し、4年間を通して国内外での実習経験を積み重ねることで、対象者ひとりひとりに応じた健康支援の必要性を理解するとともに、看護の実践力を身に付ける。
5. 専攻科目のうち専門基礎分野では、健康や疾病を理解する基礎医学関連科目を配置し、人体への科学的根拠に基づく理解を深めるとともに、看護職としての倫理観を身に付ける。
6. 専攻科目のうち専門分野では、各領域に社会の国際化を反映した科目を配置し、海外での研究活動経験や医療現場での豊富な臨床経験を持つ看護師、助産師、保健師、医師等による最新の研究成果を取り入れた授業を行うことで、それぞれの領域を通じたグローバルな視野と看護における課題を理解する。
7. 実習では少人数グループを編成して教員と共に実習施設での看護の実践を行うと同時に、各人が対応したケースを全員で共有しながら振り返りを行うことで、複雑多岐にわたる医療現場のなかで多職種と連携して主体的・対話的に看護実践の応用力を発揮するための適切な看護の専門的知識と技術を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大手前大学ウェブサイト）

（概要）

国際看護学部は、本学の建学の精神、目的、使命および教育方針に共感し、自ら課題を探求し自律的に考え行動して解決の道を切り拓く意欲と能力に富み、多様性を有する対象者への看護を通じて国際化する社会に暮らす人々の健康支援とその向上に貢献するグローバル人材としての看護師を志す学生を受け入れます。

多様な能力を持った学生を幅広く受け入れるために、多種の選抜方式を用意し公正かつ厳正な選考を行います。

本学は以下の資質を備えた人材を積極的に受け入れます。

1. 国際化する社会で暮らす人々への看護と健康支援に対する強い関心と旺盛な探究心および自己成長に対する意欲を有している。
2. 看護職者が国際化する社会において果たす使命や役割について理解し、看護の専門家としてグローバルな社会に貢献しようとする熱意と意欲を有している。
3. 多様性を理解、受容するグローバル人材としての看護師を目指すための基盤となる知識・能力を有している。

具体的には、学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価します。このうち「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」では、本学で看護を学ぶ意欲と一定程度のコミュニケーション能力や論理的思考力、行動力等の資質を重視します。「知識・技能」では、多様な人々を理解、受容し適切なコミュニケーションをはかる基盤となる「国語」、「外国語」と、看護の基礎となる「生物」、「化学」、「数学」に関する基本的な知識・技能を有していることが望まれます。

入学者の選抜においては、さまざまな試験をそれぞれの入試種別に応じて組み合わせ、上記の必要な資質を有しているかを評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。

<https://gakuen.otemae.ac.jp/about/organization.html>

<https://www.otemae.ac.jp/about/info.html>

https://dec.otemae.ac.jp/about/basic_policy.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
国際日本学部	—	14人	8人	4人	0人	0人	26人
建築&芸術学部	—	14人	4人	2人	0人	0人	20人
現代社会学部	—	10人	8人	0人	1人	0人	19人
経営学部	—	7人	6人	1人	1人	0人	15人
健康栄養学部	—	9人	3人	5人	1人	0人	18人
国際看護学部	—	10人	7人	9人	9人	4人	39人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		295人					295人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大手前大学ウェブサイト→大学案内→教員紹介 →研究者業績検索システム https://kg.otemae.ac.jp/gyoseki/japanese/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際日本	160人	146人	91.3%	746人	719人	96.4%	6人	14人
建築&芸術	170人	209人	122.9%	726人	830人	114.3%	6人	10人
現代社会	200人	223人	111.5%	876人	981人	112.0%	6人	25人
現代社会 (通信教育課程)	500人	267人	53.4%	3,000人	3,094人	103.1%	500人	161人
経営	170人	186人	109.4%	170人	186人	109.4%	0人	0人
健康栄養	80人	91人	113.8%	352人	320人	90.9%	16人	4人
国際看護	80人	90人	112.5%	320人	340人	106.3%	0人	0人
合計	1,360人	1,212人	89.1%	6,190人	6,470人	104.5%	543人	214人
(備考) ・令和3年4月 学部学科名称変更のため、メディア・芸術学部メディア・芸術学科から建築&芸術学部建築&芸術学科に名称変更。 ・令和4年4月 学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から国際日本学部国際日本学科に名称変更。 ・令和5年4月 経営学部経営学科 開設。収容定員欄は学年進行中の人数を記載。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際日本	198人 (100%)	9人 (4.5%)	147人 (74.2%)	42人 (21.2%)
建築&芸術	192人 (100%)	2人 (1.0%)	145人 (75.5%)	45人 (23.4%)
現代社会	238人 (100%)	7人 (2.9%)	187人 (78.6%)	44人 (18.5%)
健康栄養	82人 (100%)	0人 (0%)	77人 (93.9%)	5人 (6.1%)
国際看護	78人 (100%)	4人 (5.1%)	71人 (91.0%)	3人 (3.8%)
合計	788人 (100%)	22人 (2.8%)	627人 (79.6%)	139人 (17.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				
・令和3年4月	学部学科名称変更のため、メディア・芸術学部メディア・芸術学科から建築&芸術学部建築&芸術学科に名称変更。			
・令和4年4月	学部学科名称変更のため、総合文化学部総合文化学科から国際日本学部国際日本学科に名称変更。			
・令和5年4月	経営学部経営学科 開設 (卒業生なし)。			

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>シラバス作成に関しては依頼時に本学のカリキュラム・ポリシーを示し、担当教員は「授業目的」「各回の授業計画」の他、「授業時間外学習」「到達目標」「成績評価の基準と方法」などの項目を入力していく。また、通学課程においては本学独自の「到達基準」(C-PLATS[®]=社会人基礎力を10の項目に分け、それぞれ到達基準を示したもの)についても入力依頼している。入力された内容については、学部長及び各メジャー主任が確認のうえ、学生に対して本学の総合学修システム(LMS)で、外部に対しては本学ウェブサイトにて公表を行っている。</p> <p>(通信教育課程)</p> <p>各教員は本学のカリキュラム・ポリシーに沿った「学習目標」「学習の進め方」「各回の授業計画」のほか、「授業時間外学習」「成績評価方法」等をシラバスにまとめていく。</p> <p>通信教育課程の授業方法は大きく分けて3つあり、オンデマンド型の通信授業、メディア授業(ライブ配信含む)、対面のスクーリングとそれぞれ教育効果が高く、学修がはかどり易い授業方法により授業は進められる。</p> <p>シラバスの内容については、現代社会学部長、通信教育部長等が確認のうえ、学生に対しては通信教育課程の学修支援システムで、外部に対してはウェブサイトにて公表を行っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(通学課程)</p> <p>学習成果にかかる成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。</p>

評語	意 味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

学生に対しては、配布している冊子「履修ガイド」で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスにおいても周知を図っている。

卒業については、大学全体及び各学部ごとにディプロマ・ポリシーを作成し、示している。これらの方針に沿って、修業年限及び各学部で示した卒業要件単位数を学生に対して示している。

① 修業年限

卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、2年次に編入学した者については3年以上、3年次に編入学した者については2年以上となる。

大学には、休学期間を除き、8年間（編入学した者を除く。）在籍することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。

② 卒業要件単位数等

卒業するためには、次の要件をすべて満たした上で、卒業の要件となる科目の中から124単位以上を修得する必要がある。

i) 国際日本学部、建築&芸術学部及び現代社会学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」

イ 所属する学部（学科）の「ゼミナールⅠ」及び「ゼミナールⅡ」並びに「卒業研究」又は「卒業制作」の単位を修得していること。

ウ 所属する学部（学科）の専攻プログラムからメジャー1つ以上を修めていること。

ii) 経営学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」

イ 「ゼミナールⅠ」及び「ゼミナールⅡ」並びに「卒業研究」の8単位を修得していること。

ウ 専攻科目から必修12単位を修得していること。

エ 5つの専門分野（【経営】【会計】【マーケティング】【デジタルビジネス】【いきいきキャリア】）のうち1つの専門分野から16単位以上を修得していること。

オ 「経営学」メジャー（66単位）を修めていること。

iii) 健康栄養学部

ア 以下の必修科目の単位をすべて修得していること。

- ・「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、「キャリアデザインⅢ」及び「キャリアデザインⅣ」
- ・「英語Ⅰ」及び「情報活用Ⅰ」

イ 「応用セミナーⅠ」、「応用セミナーⅡ」、「応用セミナーⅢ」及び「応用セミナーⅣ」

イ 各年次における必修の専攻科目（次号に掲げる科目を除く。）計96単位をすべて修得していること。

ウ 「管理栄養士特講Ⅰ」及び「管理栄養士特講Ⅱ」又は「卒業研究」の単位を修得していること。

- エ メジャー（主専攻）1つ以上を修めていること。
- オ 入学時からの通算G P Aが1.5以上であること。
- iv) 国際看護学部
- ア 総合科目から、以下の22単位以上を修得していること。
 - ・必修17単位
 - ・[グローバル社会と言葉]から「看護のための中国語」又は「看護のための韓国語」のいずれか1単位及び「Basic Communication in Global Context」又は「Listening & Speaking in a Global Society」のいずれか1単位の合計2単位
 - ・[リベラルアーツ][グローバル社会と文化]の選択科目から合計3単位以上
- イ 専攻科目の[専門基礎分野]から必修27単位を修得していること。
- ウ 専攻科目の[専門分野]から必修73単位を修得していること。
- エ メジャー（主専攻）を1つ以上修めていること。
- オ 入学時からの通算G P Aが1.5以上であること。

上記、卒業の認定に関する基準は、学生に対しては本学の総合学修システムで、外部に対しては本学ウェブサイトで公表を行っている。

(通信教育課程)

学修成果にかかる成績評価については、「A」「B」「C」「D」及び「F」の5段階によって評価し、「A」「B」「C」又は「D」の評価を得たものについては、所定の単位が与えられる。成績の評語と意味は次のとおり。

評語	意味
A	特に優秀な成績
B	優れた成績
C	一応その科目の要求を満たす成績
D	単位が与えられる最低の成績
F	不合格

学生に対しては、「学生便覧」で成績評価について示すとともに、各種ガイダンスや学修支援システム等においても周知を図っている。

卒業については、大学全体及び通信教育課程のディプロマ・ポリシーを作成し、示している。この方針に沿って、修業年限及び卒業要件単位数を学生に対して示している。

①修業年限

卒業するには、4年以上本学に在学する必要がある。ただし、3年次に編入学した者については2年以上となる。

大学には、休学期間を除き、8年間（編入学した者を除く。）在学することができる。この間に卒業要件を満たす必要がある。

②卒業要件単位数等

卒業するためには、下表の要件を満たす必要がある。既修得単位を含め124単位を修得し、修業年限、スクーリング単位数を満たした者は、教授会の議を経て、卒業を認定する。

	卒業要件単位数 (うちスクーリング要件単位数)	修業年限
1年次入学生	124単位以上 (30単位以上)	4年以上
3年次編入学生	124単位以上 (16単位以上)	2年以上

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際日本	国際日本	124 単位	有	20～26 単位 (半期)
建築&芸術	建築&芸術	124 単位	有	20～26 単位 (半期)
現代社会	現代社会	124 単位	有	20～26 単位 (半期)
	現代社会 (通信教育課程)	124 単位	無	4 月入学： 42 単位 (年度) 10 月入学： 22 単位 (年度)
経営	経営	124 単位	有	20～26 単位 (半期)
健康栄養	管理栄養	124 単位	有	52 単位 (年間)
国際看護	看護	124 単位	有	20～26 単位 (半期) 1 年次は年間 40 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)	<p>公表方法：</p> <p>(通学課程) 本学ではCAP制度を導入している。(CAPとは、1 学期における履修登録単位数の上限のことをいう。)本制度は、各学期における学修計画・生活計画をしっかりと立て、目標を適切な範囲で設定し、無理なく着実に単位を修得し、さらにより成績評価を得るための制度である。 学期ごとに履修登録できる単位数の上限(CAP)は、前学期のGPAにより次のとおり変動する(健康栄養学部を除く)。</p> <p>原則として 20単位 ※国際看護学部1年次 年間40単位 前学期のGPAが2.5以上3.0未満 22単位 前学期のGPAが3.0以上3.5未満 24単位 前学期のGPAが3.5以上 26単位 注)健康栄養学部 年間52単位 なお、入学時の学期(編入学を含む。)のCAPは、20単位である。</p> <p>(通信教育課程) GPA制度を用いて、成績優秀者を卒業時に表彰することにより、学生の学修意欲向上に努めている。</p>			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	<p>公表方法：大手前大学ウェブサイトにて公表する。 https://www.otemae.ac.jp/files/about/2022_daigaku_enquete.pdf</p>			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
大学ウェブサイト [確認方法：インターネット]
<https://www.otemae.ac.jp/institution/education/>
大学案内パンフレット[入手方法：インターネット]
<https://www.otemae.ac.jp/request/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
国際日本	国際日本	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費 240,000円、 休学中の在籍料 120,000円
建築&芸術	建築&芸術	810,000円	240,000円	460,000円	令和3年度からの入学生 その他:施設設備費 240,000円、 教育充実費 100,000円、休学中 の在籍料 120,000円
		810,000円	240,000円	360,000円	令和2年度までの入学生 その他:施設設備費 240,000円、 休学中の在籍料 120,000円
現代社会	現代社会	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費 240,000円、 休学中の在籍料 120,000円
経営	経営	810,000円	240,000円	360,000円	その他:施設設備費 240,000円、 休学中の在籍料 120,000円
健康栄養	健康栄養	860,000円	270,000円	510,000円	その他:施設設備費 240,000円、 教育充実費 150,000円、休学中 の在籍料 120,000円
国際看護	国際看護	1,000,000円	270,000円	820,000円	その他:教育施設充実費 620,000円、休学中の在籍料 200,000円
現代社会 (通信教育課程)	現代社会 (通信教育課程)	326,000円	20,000円	24,000円	その他:在籍料 24,000円。 10月入学生は入学年度及び卒業 年度に限り授業料、在籍料を 半額とする。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
(通学課程) 本学では、専任教員がアドバイザーとして学生一人ひとりを担当し、学修その他に関する指導を行っている。アドバイザーは、担当する学生の履修登録、授業への出席状況、成績や就職活動状況などを絶えずモニターし、必要に応じて学生に助言や指導を行う。年間を通じた指導では、アドバイザーは、担当する学生の学修(出席情報の把握を含む。)を指導し、進路決定や学籍異動(留学・転部・転籍・休学・復学・退学)に関する相談に応じる。また、学期ごとに、毎学期の履修について助言・指導し、学業成績に基づいて学生本人・保護者と面談する。保護者会においては、保護者からの相談に応じる体制を整えている。
(通信教育課程) 学修計画や学修上での相談・問い合わせ等に対応する専任スタッフとして学修アドバイザーを配置し、学生の支援・相談を担っている。学修アドバイザーは、個別相談対応だけでなく、履修登録前後や授業開始後、単位修得試験前後等学生が悩んだり、学修がストップしそうな時期(履修履歴等により学生の学習やアクセス数が減少する時期等)に学修支援システムでメッセージを送信するなど、学修全般に対する支援を行っている。 また、若年者層には学修支援を目的とした科目「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」の履修を推奨し、当該の授業内では担当教員との個別面談を実施する等通信教育の学習形態である一人で学修することの不安や孤独感を少なくするような支援を実施している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

通学過程と通信教育課程のそれぞれに体制をとって学生支援を行っている。

(通学課程)

専門スタッフが、学生からの相談にマンツーマンで対応している。また単位認定授業として3年生春学期から就職支援講座の開講や、企業をお呼びしての本学独自の企業説明会や保護者向けの説明会、インターンシップの推奨、単位認定制のインターンシップ制度など、特に就活を中心に多方面から学生のキャリア設計を支援している。

(通信教育課程)

オンラインによるキャリアカウンセリングを専門業者に委託している。正科生は専門のキャリアカウンセラーからカウンセリングやアドバイスを受けることができる。なお、本サービスでは求人紹介等を行わない。

また、2023年度より26歳未満の若年層学生を対象とした有料の就職活動準備コミュニティを開設した。当コミュニティでは、2か月に1回のペースでの就職活動に係るセミナーの開催やオンラインインターンシップ(有料)の案内を行うとともに、キャリアカウンセラーが個別面談を実施し、就職活動に対する疑問や悩みに対してアドバイスを行う等、円滑な就職活動のサポートをする。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康等に係る支援を行うために、「健康相談室」「学生相談室」を設置し、相談が必要な学生が利用できるようにしている。

○「健康相談室」は授業期間中の月～金曜日の9:00～17:00に開室、健康相談および救急処置等に応じている。1年に1度の健康診断を実施、結果をもとに健康指導や、身体の異常、苦痛、不安等を感じたら、一人で悩むことなく気軽に来室するように紹介している。早期に適切な対策を立てれば解決することが多く、必要な時は学校医に相談し、信頼のできる各科の専門医の紹介も行っている。

大学学校医

甲南回生 松本クリニック

診療科目 内科・外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科

所在地 芦屋市三条南町13-16 ソレイユ芦屋3F

○「学生相談室」は、心身の健康を図るためカウンセリングを行っている。誰もが経験する様々な悩みや問題について、専門のカウンセラーが相談に応じ、問題の解決に向けて学生とともに考えていくところとして案内している。

利用方法や開室日時については、ガイダンスで資料を配布、キャンパス内の掲示板に掲示している。

2022年度も対面とzoomやメールなど非対面面談を実施した。

学生相談室開室日時

授業期間中の月～金 9:50～16:50の予約制

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ウェブサイトにより公表

<https://www.otemae.ac.jp/institution/research/>

『大手前大学論集』、『大手前大学史学研究所紀要』

大手前大学・大手前短期大学図書館および国立国会図書館に所蔵

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108838
学校名	大手前大学
設置者名	学校法人大手前学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		537人	520人	—
内 訳	第Ⅰ区分	347人	329人	
	第Ⅱ区分	119人	123人	
	第Ⅲ区分	71人	68人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				558人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	25人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	42人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	50人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。